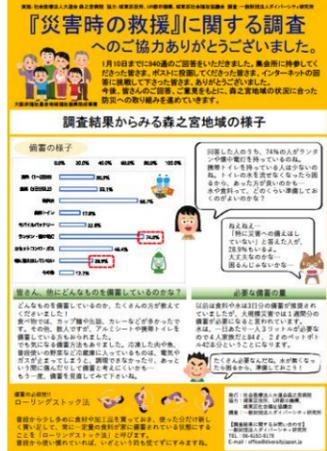


事業概要

団体名	社会医療法人大道会森之宮病院	総合評価 S	評価基準（総合評価） S（非常に高く評価できるもの） A（高く評価できるもの） B（一定の水準にあるが一部課題のあるもの） C（一定の水準にあるがかなり課題のあるもの） D（全般的に多く課題のあるもの）
事業名	SAC高層賃貸住宅における災害弱者支援（多世代・多機関協働の推進）		
実施期間	平成31年10月1日～令和2年3月31日		
助成（実績）額	4,382,837円		

事業概要	事業実績	事業を実施したことによる成果
各事業（下記①～⑥）を区役所・UR都市機構・区社協・地域包括支援センター・地域活動協議会等からなるスマートエイジングシティ（SAC）ネットワーク会議での相談・協働により実行した。	当活動期間中にSACネットワーク会議（コア会議含む）を6回、各地域役員・関係機関との打ち合わせを12回行った。	住民・SACネットワーク関係機関との検討や協働経験の積み重ねにより、住民からの協働依頼も増えた。新たな機関の参加や新たな防災イベントの企画など、防災活動の活性化につながっている。
① 災害時の救援に関する実態調査の実施（企画、告知活動、回収会含む）	① 地域内全戸約3200戸への告知ツール・調査票の配布・説明回収会の開催等を経て、940余世帯の回答を得た。 要援護者のいる世帯が半数以上、支援してもよいと回答された世帯が約6割あり、支援される側・する側双方への取り組みの必要性を確認できた。	① 住民の呼びかけ・回答により地域像を把握できた。回収会場における意見交換では、備蓄の知識・購入方法・防災備蓄・孤立・情報共有・安否確認の課題が明確となった。 調査前は要支援者に意識が向いていたが、地域内で支援要員を確保できる可能性も感じることができた。
② 災害時の救援に関する実態調査の結果報告（各種会議、イベント、報告書の全戸配布） 報告チラシ（両面印刷）⇒ 	② 住民に防災意識を高めてもらうことを目的とし、実態調査結果報告チラシを作成し、地域内全戸へ配布した。 以下、回答結果を抜粋する ・3割弱は備蓄なし ・3割の方が大阪北部地震で困った（EVが動かない等） ・3割強の方が助けてくれる人がいない ・6割弱の方は支援してもよい	② 実態調査で把握できた自助・共助の課題を分かりやすく住民に情報提供することができた。 自助・共助の強化に向けた取り組みとして例年開催する餅つき大会に防災コーナーの併設を企画し、同チラシにて広報できた。 既存のSAC関係機関に加え、アクションプランチーム会議への参加等により新たな世代の住民（PTA関係者等）との初協働につながる機会となった。
③ 発災想定ロールプレイ（SAC参画機関メンバーによる模擬訓練、グループワーク） 	③ 住民・SAC関係機関等の参加により、実態調査で把握した住民像をもとに低層・中層・高層階での発災時の対応についてロールプレイを行った。 ロールプレイやグループワークを経て必要な防災対策を意見交換でき、地域の課題（ア.救援・救出体制の整備、イ.備蓄推進、ウ.要援護者情報の把握・管理、エ.施設・地域情報の共有）を共有することができた。 ア.イ.は今年度事業で取り組み、ウ.エ.については関係者と一緒に次年度の事業展開を予定し、企画を立案している。	③ ロールプレイには、既存のSACネットワーク機関のほか、扶桑薬品株式会社・大阪府立大学の参加を得ることができ、地域協働ネットワークの拡充につながった。 ロールプレイで把握した課題への対応プランを下記のとおり立案した。 ア.救援・救出体制の整備⇒必要備品の購入・利用体験 イ.備蓄推進⇒チラシ広報・防災手帳の作成・配布 餅つき大会での展示・防災食セミナーの開催 セブンイレブンへの防災コーナー新設 ウ.要援護者情報の把握・管理⇒令和2年度事業へ エ.施設・地域情報の共有⇒令和2年度事業へ

<p>④ 防災備品の整備</p>	<p>④ ロールプレイの検討結果、下記の防災備品を購入した。 エアストレッチャー（EV 停止時のヒト・モノの上下移動） アルミアカー（団地エリア内の横移動） 非常用発電機（情報共有の拠点となる団地内の憩いの家用）</p>	<p>④ 高層住宅の上下移動に活用できる新たな救援備品としてエアストレッチャーを備えることができた。 購入備品の展示・利用体験を希望する声もあり、餅つき大会での防災コーナーの併設を企画することができた。</p>
<p>⑤ 防災勉強会・訓練の企画</p>	<p>⑤ 下記の事業を企画し、地域内全戸へ広報した。 自助強化：防災食セミナー （UR コミュニティ・セブンイレブン共催） 自助・共助強化：餅つき大会併設防災コーナー （地活協・アクションプランチーム共催）</p>	<p>⑤ 各関係者と協働企画し、チラシを作成の上、地域内全戸への配布による広報を行ったが、いずれも COVID-19 の感染予防として開催を見送ることとなった。</p>
<p>⑥ 防災手帳の作成 （簡易防災マニュアルの作成、配布）</p> <p>防災手帳（計 8 ページ） の表紙 ⇒</p> 	<p>⑥ 自助・共助の強化を目的とした防災手帳を作成し、全戸に配布した。 掲載した内容は下記のとおり。 1 ページ：扉掲示用（あなたの名前・緊急連絡先ほか） 2 ページ：災害時の支援について 3 ページ：地域の特徴 4 ページ：備蓄のススメ 5 ページ：災害電話 6 ページ：室内環境の整備 7 ページ：共助のススメ 8 ページ：地域内の相談機関一覧</p>	<p>⑥ 本事業だけでなく、既存の SAC 事業ほか見守り事業等を広報できた。 手帳の配布後、あんしん登録制度への新たな登録者もあり、地域内の見守り強化（共助）・孤立軽減にもつながったと考える。 地域内のセブンイレブンに設置された防災コーナーでは、災害トイレ等の購入による再入荷依頼を行ったと聞いており、備蓄の意識強化（自助）にもつながったと考える。</p>
<p>⑦ 活動結果の広報</p>	<p>⑦ 今年度の活動報告「高層賃貸住宅における災害弱者支援実施報告書」を作成し、関係者・関係機関に配布した。報告書の内容は、一般財団法人ダイバーシティ研究所のホームページからダウンロードできる。 上記の①②⑥の成果物は、森之宮地域活動協議会の Facebook、当院ホームページからダウンロードしていただける。 11/26-28 に大阪国際会議場でシンポジウム報告を予定していたリハビリテーションケア研究大会は COVID-19 の感染予防により開催中止となった。</p>	<p>⑦ 今期の活動報告を、対面・書面を通して住民・行政・地域福祉・医療・介護等を含む各関係機関と共有することができた。 エレベーターのない公営住宅でも同様の対応を検討したいとのご意見もいただいている。 MSW の研修会でも活動報告を行った。他地域の関係者も成果物をダウンロードにより確認してもらっている。</p>

※写真の挿入も可能です。（1～2枚程度）